

2011年12月31日締め第4四半期と通年の業績を発表

(このプレスリリースは、2012年2月2日に米国ボストン・サイエンティフィック社が発表したプレスリリースを翻訳したものです。)

ボストン・サイエンティフィック社(本社: マサチューセッツ州ネイティック、NY 証券取引所略号:BSX)は本日(2012年2月2日)、2011年12月31日締め第4四半期と通年の業績、ならびに2012年第1四半期および通年の売上高と1株当たり利益(EPS)の予測を発表しました。

2011年第4四半期の主要項目

- 売上高は18億4,800万ドルを達成し、GAAPベースの1株当たり利益は0.07ドル、修正後利益(EPS)は0.13ドルと、いずれも会社のEPS指針の範囲内
- 今後数年間の営業利益を改善する上で不可欠な要素である、自社製造のPROMUS Element™ Plusステントシステムの米国での発売を開始
- 堅調な新製品の販売により、全世界でエンドスコープ事業部門6%、ペリフェラルインターベンション事業部門6%、ニューロモジュレーション事業部門6%と、それぞれ売上が増加(為替変動の影響を除く)
- 中国とインドを合わせた第4四半期の売上の伸びは70%を上回り、両国のインフラとリーダーシップへの投資を継続
- 次世代製品INCEPTA™、ENERGEN™、PUNCTUA™(両室ペーシング機能付き植込み型除細動器と植込み型除細動器)の米国での発売を開始
- 生体吸収性ポリマーコーティングを採用したSYNERGY™ステントシステムの安全性と有効性を評価するEVOLVE臨床試験の主要エンドポイントを達成
- 営業キャッシュフローは3億4,900万ドルと好調で、さらに5,200万株の買い戻しを進め、2011年合計で8,200万株(発行済み株式の約5%)を取得

「私たちは今日の環境で起きている問題を認識していますが、これからも新製品の導入、コスト削減の取り組みや新興成長市場での存在感の強化により前進していきます」とCEOであるハंक・クッシュマンは述べています。

2011年第4四半期業績

2011年第4四半期の売上は18億4,800万ドルで、2010年第4四半期の20億200万ドルに比べると8%の減少でした。為替変動の影響と売却した事業の売上高を除くと、前年同期比で5%の減少となりました。

全世界での為替変動の影響を除いた第4四半期の売上高は次の通り(リポーテッドベース):

<i>in millions</i>	Three Months Ended December 31,		Change	
			As Reported Currency Basis	Constant Currency Basis
	2011	2010		
Interventional Cardiology	\$ 594	\$ 641	(7) %	(8) %
Cardiac Rhythm Management	482	564	(15) %	(15) %
Endoscopy	304	284	7 %	6 %
Peripheral Interventions	184	172	7 %	6 %
Urology/ Women's Health	127	127	0 %	(1) %
Neuromodulation	91	86	6 %	6 %
Electrophysiology	36	36	0 %	0 %
Subtotal Core Businesses	1,818	1,910	(5) %	(5) %
Divested Businesses	30	92	N/A	N/A
Worldwide	\$ 1,848	\$ 2,002	(8) %	(8) %

GAAP ベースで、2011 年第 4 四半期の純利益は 1 億 700 万ドル (1 株あたり 0.07 ドル) でした。この業績は買収・売却関連の純貸方勘定 (費用)、訴訟・組織再編の関連費用、税制上の優遇措置、償却費用の 9,000 万ドル (1 株あたり 0.06 ドル) を含みます。これらの費用を除いた 2011 年第 4 四半期の修正後純利益は、1 億 9,700 万ドル (1 株あたり 0.13 ドル) でした。

GAAP ベースで、2010 年第 4 四半期の純利益は 2 億 3,600 万ドル (1 株あたり 0.15 ドル) でした。この業績は買収・売却・訴訟・組織再編に関連する正味費用、税制上の優遇措置および償却費用 (税引き後) の 7,700 万ドル (1 株あたり 0.05 ドル) を含みます。これらの正味費用を除いた 2010 年第 4 四半期の修正後純利益は、3 億 1,300 万ドル (1 株あたり 0.20 ドル) でした。

2011 年通年業績

2011 年通年の売上は 76 億 2,200 万ドルで、2010 年通年の 78 億 600 万ドルに比べると 2% の減少でした。為替変動の影響と売却した事業の売上高を除いても前年同期比で 2% の減少となりました。

全世界での為替変動を除いた通年の売上高は次の通り (リポーターベース) :

<i>in millions</i>	Year Ended December 31,		Change	
			As Reported Currency Basis	Constant Currency Basis
	2011	2010		
Interventional Cardiology	\$ 2,495	\$ 2,602	(4) %	(7) %
Cardiac Rhythm Management	2,087	2,180	(4) %	(7) %
Endoscopy	1,187	1,079	10 %	6 %
Peripheral Interventions	731	669	9 %	5 %
Urology/ Women's Health	498	481	4 %	2 %
Neuromodulation	336	304	11 %	10 %
Electrophysiology	147	147	0 %	(2) %
Subtotal Core Businesses	7,481	7,462	0 %	(2) %
Divested Businesses	141	344	N/A	N/A
Worldwide	\$ 7,622	\$ 7,806	(2) %	(5) %

GAAP ベースで、2011 年通年の純利益は 4 億 4,100 万ドル(1 株あたり 0.29ドル)でした。この業績は営業権と無形資産の減損費用、買収・売却関連の正味費用、訴訟・組織再編に関する費用、税制上の優遇措置、償却費用(税引後)の 5 億 7,700 万ドル(1 株あたり 0.38ドル)を含みます。これらの正味費用を除いた 2011 年通年の修正後純利益は、10 億 1,800 万ドル(1 株あたり 0.67ドル)でした。

GAAP ベースで、2010 年通年の純損失は 10 億 6,500 万ドル(1 株あたり 0.70ドル)でしたが、これは主に 2010 年第 1 四半期に記録された営業権減損費用によるものです。この業績は、営業権と無形資産の減損費用、買収・売却・訴訟・組織再編に関連する正味費用、税制上の優遇措置および償却費用(税引後)の 21 億 1,600 万ドル(1 株あたり 1.39ドル)を含みます。これらの正味費用を除いた 2010 年通年の修正後純利益は、10 億 5,100 万ドル(1 株あたり 0.69ドル)でした。

2012 年第 1 四半期および通年の指針

ポストン・サイエンティフィック社は、2012 年第 1 四半期の純売上高を 18 億 2,500 万ドルから 19 億ドルの範囲内と予想しています。また、GAAP ベースで 1 株当たりの利益は 0.02ドルから 0.05ドルの間になる見込みです。買収・組織再編に関連した費用、償却費用を除いた 1 株当たりの修正後利益は、0.11ドルから 0.14ドルの範囲になると予想しています。先ごろの買収とニューロバスキュラー事業の売却は、2011 年第 1 四半期と比較して、2012 年第 1 四半期の売上高(1 株当たりの修正後利益)にさほど影響を与えないと見られています。

ポストン・サイエンティフィック社は、2012 年通年の売上高を 73 億ドルから 77 億ドルの範囲内と予想しています。また、GAAP ベースで 1 株当たりの利益は 0.25ドルから 0.38ドルの間になるとの見込みです。買収・組織再編に関連した費用、償却費用を除いた 1 株当たりの修正後利益は 0.60ドルから 0.70ドルの範囲になると予想してい

ます。先ごろの買収とニューロバスキュラー事業の売却は、2011年と比較して2012年売上高(1株あたりの修正後利益)にさほど影響を与えないと見られています。

<ボストン・サイエンティフィック社について>

ボストン・サイエンティフィック社(米国マサチューセッツ州)は、最先端メディカルデバイス(医療機器)の開発・製造・販売を行うグローバル企業です。インターベンション(身体をメスで大きく切らない治療)の分野では世界最大手。

<http://www.bostonscientific.com>

このプレスリリースに関するお問い合わせ先

プレスルーム (コーポレートコミュニケーションズ)

TEL : 03-3343-9411, FAX : 03-3343-0264

E-mail でのお問合せはこちらへ (pressroom@bsjkk.co.jp)

ボストン・サイエンティフィック ジャパン株式会社

電話会議についての情報

ボストン・サイエンティフィック社の役員は、本日(2/2)午前8時00分(東部標準時)より、これらの業績に関してアナリストと電話会議を行う予定です。ボストン・サイエンティフィック社は、関係者のためにこの電話会議の様子を www.bostonscientific.com にて配信します。アクセス方法の詳細についてはこのウェブサイトでご確認ください。この電話会議は、ボストン・サイエンティフィック社のウェブサイトにて約1年間配信する予定です。

将来予測に関する記述についての注意事項

このプレスリリースには、証券法(1933年制定)第27A条および証券取引法(1934年制定)第21E条の意味するところの将来予測に関する記述が含まれています。「予期する」「期待する」「予想する」「信じる」「計画する」「推定する」「意図する」などの語句を用いた表現が将来予測の記述となりますが、これらの記述は現時点で得られた情報による確信、想定、推定に基づくものであり、将来の事象や実施を保証することを意図するものではありません。将来予測の記述には、2012年度第1四半期および通年の純売上高・GAAPベースの業績・修正業績についての予測、買収およびニューロバスキュラー事業売却の影響についての予測、財務成績、製品市場、ビジネス戦略の影響、新製品の導入、コスト削減の取り組み、新興成長市場などにおける成長イニシアチブなどに関する記述なども含まれます。基本的な前提が結果的に不正確であった場合、もしくは一定のリスクや不確実な要素が具体化するような場合には、将来予測に関する記述で明示または含意された見込みおよび予測と実際の結果が大幅に異なる可能性があります。これらのリスクや不確実な要素は、事業戦略の実施能力に対して実際に影響している場合や、将来的に実施能力に影響を及ぼす可能性があり、本プレスリリースの記載で予期した結果と実際の結果が大幅に異なる状況をもたらすことがあります。そのため、本プレスリリースの読者は将来予測に関する記述について全面的に依拠することを避けるよう注意してください。

このような相異をもたらすリスクや不確実な要素には、将来の経済、政治、競争入札、償還、法および規制の諸条件、新製品の導入、市場における新製品の受容、米国のCRM市場などの製品市場、市場価格、手続き量、臨床試験の結果、人口統計学的動向、知的所有権および関連その他の訴訟、金融市況、コスト削減の取り組みおよび成長イニシアチブを含めたビジネス戦略の実施と影響、ボストン・サイエンティフィック社および競合他社の将来的な経営上の意思決定などがあります。新たなリスクや不確実な要素が時として生ずる可能性があり、予想は困難です。これらの要因すべてを正確に予測することはほとんど不可能であり、また、多くは制御できません。ボストン・サイエンティフィック社の将来的な経営に影響する可能性のある要因ならびにその他の重大なリスクに関する概要および詳細な一覧については、証券取引委員会に提出した、最新の10-K年次報告書パートI 1A項目「危険因子」を参照してください。なお、この内容は、提出済みもしくは提出予定の10-Q四半期報告書パートII 1A項目「危険因子」で更新されることがあります。ボストン・サイエンティフィック社は、見込みの変更やその根拠となる事象、条件、状況の変化など、将来予測の記述に記載された内容と実際の結果が異なる可能性に影響を及ぼすような変化について、それらを反映するように将来予測に関する記述の内容を公に更新または改訂する意思および義務を一切否認します。本注意事項は本プレスリリースに記載された将来予測に関するすべての記述に適用されます。

非 GAAP による財務情報の使用

ボストン・サイエンティフィック社の非 GAAP (一般会計原則) の数値を対応する GAAP の数値に調整したもの、およびボストン・サイエンティフィック社がこうした非 GAAP の数値を使用する理由につきましては、本プレスリリースに付属の別紙をご覧ください。

連絡先:

エリック・オールソン
336-293-4393 (社内)
eric.olson@bsci.com
メディア向け情報担当

ショーン・フィンドレン
617-520-7268 (社内)
sfindlen@webershandwick.com
メディア向け情報担当

デニス・カイグラール
508-650-8330 (社内)
denise.kaigler@bsci.com
メディア向け情報担当

ショーン・ヴァーチス
508-652-5305 (社内)
investor_relations@bsci.com
投資家向け情報担当